

ITU-RにおけるWRC-19議題1.16の議論状況

2018.07.27

NTTアクセスサービスシステム研究所

我が国の議題1.16に向けた取組

- 5GHz帯無線LANの需要増への対応、国内制度との整合性の観点から、特に、5 150-5 250 MHz帯の屋外開放のRR改正に向けた取組を進めている。
- ITU-R WP5A会合、APG会合にて、継続的に寄書入力を行い、我が国の主張を出力文書に反映させている。

(参考)2019年世界無線通信会議(WRC-19)に向けた我が国の考え方(平成30年3月2日)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban10_02000025.html

http://www.soumu.go.jp/main_content/000536385.pdf

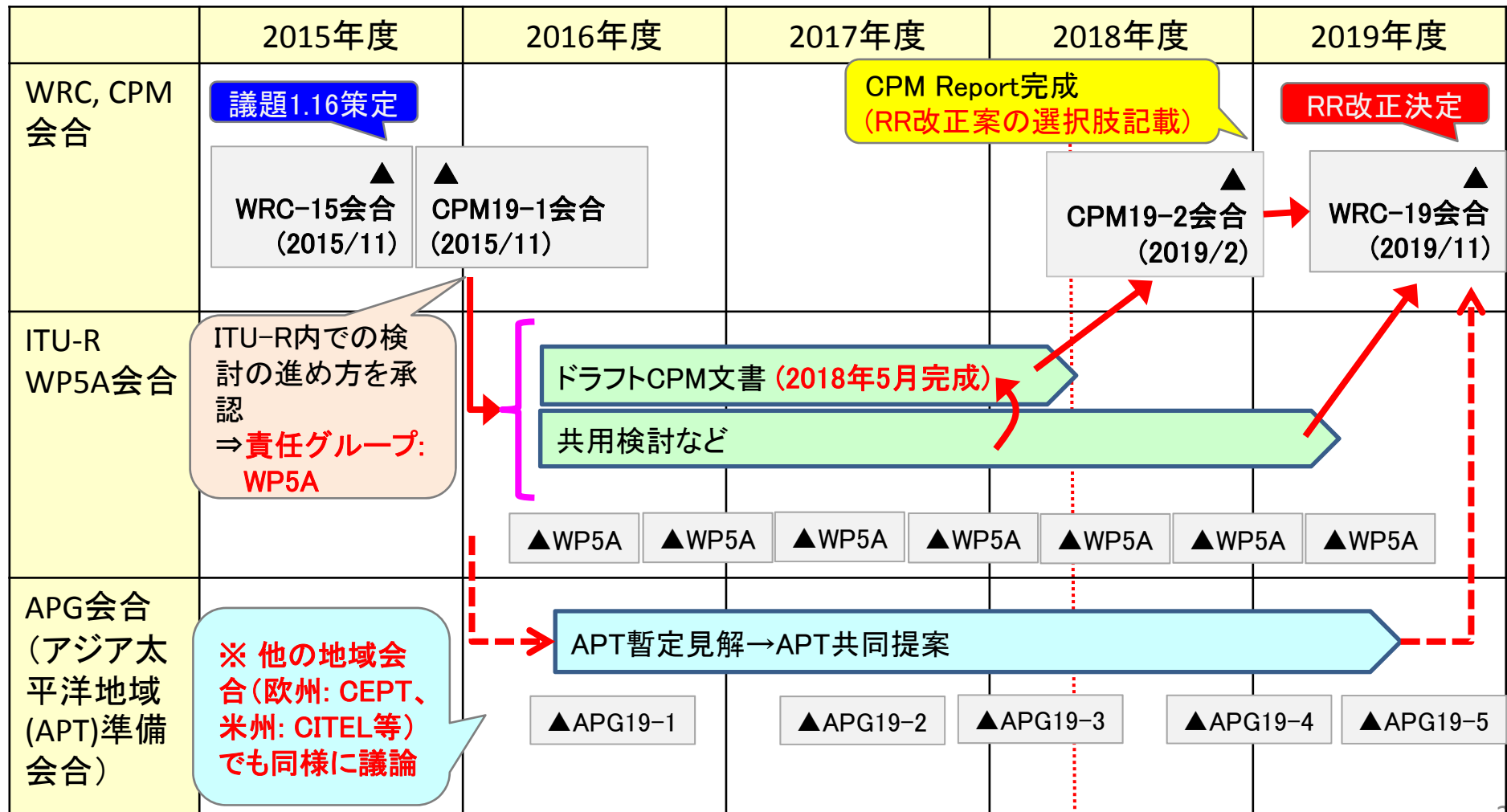
議題1.16:

<我が国の考え方>

既存業務の適切な保護がなされるべきである。また、我が国は既存業務を適切に保護した上で5150-5250MHzのRLANの屋外利用を可能とするためのRR改訂を支持する。

WRC-19におけるRR改正までのプロセス

- ・WRC-15にて議題1.16が策定 → ITU-R WP5Aで研究・議論開始。
- ・WRC-19でのRR改正議論は、CPM Report (WRC-19準備文書:RR改正案選択肢記載)に基づき行う。
- ・CPM Reportの案(ドラフトCPM文書)は、2018年5月に完成。



ドラフトCPM文書: RRの改正案の選択肢(2018年5月会合時点)

- ドラフトCPM文書は、ITU-R WP5A・2018年5月会合で完成。
- 5 150-5 250 MHzで、RR改正案の選択肢(Method)として、日本案を反映 (No Change (NOC)、米国案、フランス案と併記)。

周波数	Method	RR改正案の概要	備考
5 150-5 250 MHz (W52)	Method A1	NOC	
	Method A2	最大電力1W+6dBi (=4W)、仰角30度超でe.i.r.p.上限125mWで、屋外開放。帯域外漏洩の上限 -27dBm/MHz (5 150-5 250 MHzで送信時の、5 150-5 350 MHzの外が対象)。	米国案
	Method A3	5 250-5 350 MHz帯と同条件 (e.i.r.p.(最大1W)・仰角制限が同じ(日本国内規定と同じ)。大部分が屋内で利用) で屋外開放。	日本案
	Method A4	乗物内で開放 (最大e.i.r.p. 40mW)。	フランス案 (低e.i.r.p.と遮蔽効果で屋内と同等と主張)
5 250-5 350 MHz (W53)	Method B	NOC	
5 350-5 470 MHz (W54)	Method C	NOC	
5 725-5 850 MHz (W58)	Method D1	NOC	
	Method D2	全世界またはRegion 1向けに、移動業務分配。屋内限定、DFS・送信電力制御必須。	英国案
	Method D3	脚注分配の拡大(既存脚注に追加、または新規脚注)。	英国案
5 850-5 925 MHz (W59)	Method E	NOC	